

# 能 舞 台

能村 研三

能村家の  
ファミリーヒストリー

五月二十四日は父登四郎の命日で平成十三年に亡くなって二十一年が経った。我が家の仏壇には能村家先祖代々の位牌が祀られているが、位牌をつぶさに見てみると父の父、私には祖父に当たる二三郎も五月二十四日が命日で、昭和九年に亡くなっている。

二三郎は父の話によると金沢で宮大工をしていたそうで、頑固で強情で負けず嫌いな人であったらしい。東京に出て大きな工務店を営み、父が生まれた時の記念写真には店の衆百人位が背景にしているものがあり、その写真からもその時の隆盛ぶりがうかがえる。

先日、父登四郎の書庫を整理していたら、父が途中まで書きかけた能村家の家系図が出てきた。しかしまだ完成されてはおらず、私も気にかけていたものの多忙にかまけてそのままに残っている。

汗ばみて加賀強情の血ありけり

登四郎

私は能村家の親戚一同の中でも一

立春大吉起きがけの首回しけり  
うすらひのかけら日よりも眩しかり  
川幅に敵ふ水音水草生ふ  
浅春の声ゆき渡る能舞台

初午の燈明に笙奉る

鞆を大きく漕ぎて別れけり

遠目にも竹林の濃き涅槃の日

しろじろと草に根のある雨水かな

二月礼者流行にやや疎きかな

西方より戦火の匂ふ霾降れり

番若いので、昔のことが分からないまま現在に至っているが、家系にこゝとに詳しかった従妹も他界しているので、もはや聞ける人はいなくなっていました。

先日試みに父の本籍地である北区田端の戸籍原簿を調べてみようと思いに書類を取り寄せてみた。それによると父には姉が二人と兄が二人そして妹一人がいて、父の母、つまり私の祖母にあたる人はかねと言った東京の神田区千代田町の生まれの人であった。

NHKテレビの「ファミリーヒストリー」は、有名人の父母や先祖がいかに生き抜いてきたかを日本国内外や関連人物へ取材する番組で私もよく見ている。私もこうして先祖のルーツを探っていくことは中々興味深いことである。

春の彼岸には菩提寺延壽寺の墓に詣でたが、墓には祖父や祖母が祀られているのだということを改めて認識した。

能村 研三